

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 9日		～	令和7年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 9日		～	令和7年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 13日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者への共感的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・その日のお子様の様子を観察し、その日の心の状態に寄り添った対応を心掛けている。 ・職員一人一人がお子様や支援者の良い部分、強みに眼を向けられるようニヤリホット報告書をつけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より専門性を活かしたプログラムが実施していけるように、研修等を交えて専門性を高めていきたい。

2	プログラムが充実している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会などでなかなか行きづらい場所へも行き、より多くの体験を積めるようお出かけ体験を実施している。 ・利用者が楽しんでくれそうな活動を意識している。 ・いつも決まったお子さんとの関わりだけでなく、違う曜日時間のお子さんとも一緒に取り組めるよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お出かけ体験の中でも様々なプログラムを用意して、たくさんのお子さんの経験を通して成長してもらえるよう支援していきたい。 ・各々の職員が勉強会などへの参加を増やし勉強する事で保護者様やお子様のニーズに沿ったプログラムが実施出来るようにしていく。
3	利用者の意思決定や自己決定がしやすい環境	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様が自分で決められる選択肢や理解度に合わせた視覚支援ツールを使用している。 ・見たらわかるような場所と物の提示を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗を恐れずに挑戦できる環境を整える ・意思を尊重しつつ危険な事にはしっかり説明するなど安全面の確保を行う ・定期的な見直し検討する
4	経験豊富な職員による支援	<ul style="list-style-type: none"> ・常に職員が支援について学べる環境がある。 ・社内・外部研修が充実している。 ・児童福祉事業経験5年以上の支援員や保育士経験5年以上の保育士が複数名在籍している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を経て実際の支援に繋げるための話し合い評価を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親同志の交流の場	保護者同志顔を合わせる機会が少ない。	保護者会や交流会、勉強会を通して保護者同志の関わりや相談の場を増やしていく。

2	地域の子どもたちと関われる機会が少ない	土曜日や学級日などには公共交通機関や公園、お店、地域のイベントへ参加しているが、平日は地域の子どもたちとの交流や地域の場の活用は少ない。	平日に関しても地域との交流が出来る場を活用するようにしていく。
3			